

◎景気ウォッチャー調査[2021年12月]

2021年12月の中国地域調査結果の概況

■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を1.7ポイント下回る56.7となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「来客数や売上が前年の9割程度、従来であれば、クリスマスから正月にかけて、人の動きが良くなるが、依然として客の自粛傾向が強い。」(スーパー)、「客が単価の高い商品に目もくれず、必需品だけを買うといった消費動向が顕著となっている。」(家電量販店)等の理由から、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を2.1ポイント下回る57.1となった。

企業動向関連は、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「取引先の設備投資は堅調に推移している。ただ、組み込む電子部品が値上げされ、仕入れが困難なことなどから、値上げ分の自社吸収や納期遅延の発生など、厳しい状況にある。」(電気機械器具製造業)、「手持ち工事はあるものの、資材価格が上昇、納期も掛かるなどマイナス要因が目立っており、景気はやや悪くなっている。」(建設業)等の理由から、「やや悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を3.0ポイント下回る52.3となった。

雇用関連は、「新型コロナウイルス感染症が一定の終息をしており、業界により偏りはあるものの、経済活動や購買活動が上向いている。」(新聞社)、「新型コロナウイルス新変異株の懸念はあるが、年明けや新年度からの新体制等に向け、組織の中核を担う人材や事業拡大に向けた人員の増員が各業種で活発化している。」(民間職業紹介機関)等の理由から、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を3.1ポイント上回る62.5となった。

	12月	11月	前月差
合計	56.7	58.4	-1.7
家計動向関連	57.1	59.2	-2.1
企業動向関連	52.3	55.3	-3.0
雇用関連(参考値)	62.5	59.4	3.1

■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を6.8ポイント下回る49.1となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「良くなる」、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「入試や入学等に伴う教育費の支出、ガソリンや食品等の価格の上昇などで、今後、家計の負担が増加し、節約ムードが広がることから、景気はやや悪くなる。」(一般レストラン)、「新型コロナウイルス新変異株の影響で、景気は悪くなる。」(旅行代理店)等の理由から、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を8.5ポイント下回る48.3となった。

企業動向関連は、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「今後、全ての調達コストが更に上昇すると見込まれるため、上昇したコストの販売価格への転嫁がどれだけ進むかが課題となるが、全体的にインフレが進む結果として、景気はやや悪くなる。」(木材木製品製造業)、「建設材料の価格が上昇傾向にある一方で、競争により建設工事の受注金額が低下していることから、景気はやや悪くなる。」(建設業)等の理由から、「やや悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を3.9ポイント下回る45.3となった。

雇用関連は、前月と同ポイントの62.5となった。

	12月	11月	前月差
合計	49.1	55.9	-6.8
家計動向関連	48.3	56.8	-8.5
企業動向関連	45.3	49.2	-3.9
雇用関連(参考値)	62.5	62.5	0.0